

今日のトピック 最近の指標から見る米国経済（2016年11月） 堅調に推移する家計支出

ポイント1 雇用は増加基調を維持 家計支出は堅調に推移

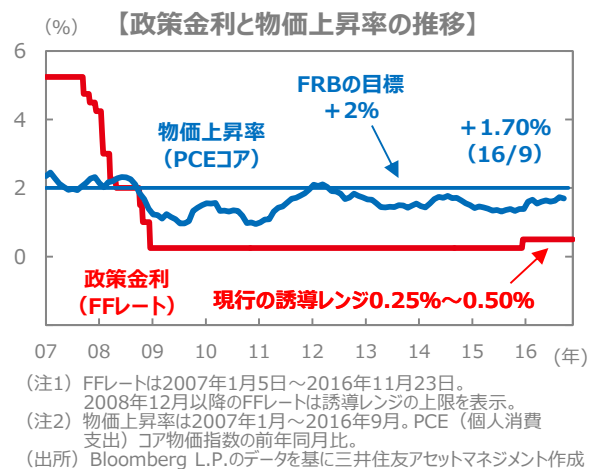
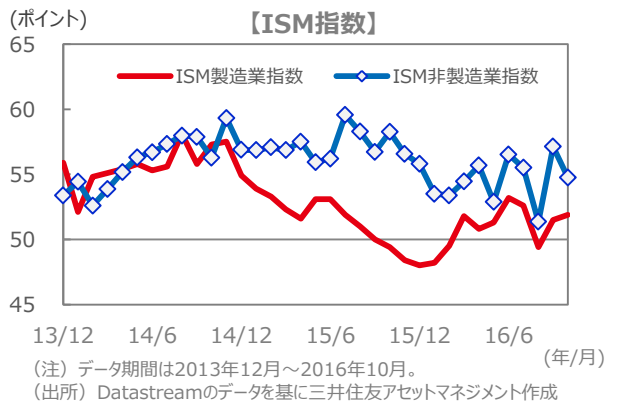
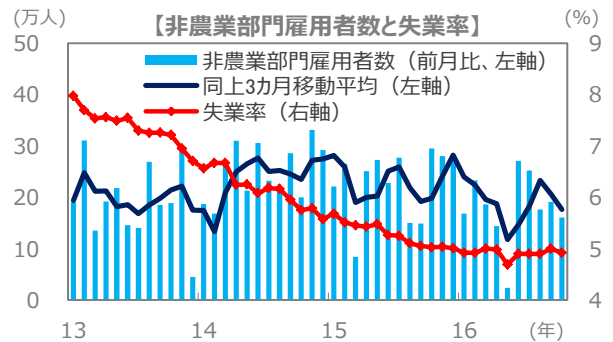
- 10月の非農業部門雇用者数は前月比16.1万人増となりました。市場予想（ブルームバーグ集計）の同17.3万人増を下回りましたが、米南東部沿岸を襲ったハリケーンの影響などを考慮に入れると、雇用は見掛けよりも良好と判断されます。
- 同月の小売売上高は前月比0.8%増、自動車を除いても同0.8%増と良好でした。11月25日に始まる年末商戦も、堅調な推移が見込まれています。そのほか、住宅関連の指標も順調でした。

ポイント2 ISM指数はまちまち 製造業は上昇、非製造業は反落

- 景気の先行きを占う際に重視されるISM指数は、製造業指数が9月の51.5から10月の51.9に小幅に上昇しました。一方、非製造業指数は同期間に57.1から54.8に下落しましたが、これは前月に急上昇（8月：51.4→9月：57.1）した反動と考えられます。いずれにしても、製造業、非製造業とも好不況の分岐点となる50を上回っていることから、その活動は拡大局面にあると判断されます。

今後の展開 利上げ速度は緩慢の見通し

- 米連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長が11月17日に行った議会証言や、11月1～2日に開催された連邦公開市場委員会（FOMC）の議事録の内容は、12月の利上げを示唆するものでした。しかし、その後については、緩やかなペースでの利上げになるとの見方が示されています。景気に対して中立的な金利水準である「自然利子率」の低下などが、その理由として挙げられています。



ここもチェック! 2016年11月14日 2017年の「FOMCメンバー」(米国)
2016年 9月15日 低下した米国の「自然利子率」(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。